

「重要業績評価指標」(財務の視点)の分析・評価結果の振り返りに基づく経営・財務上の課題整理について

当市の「重要業績評価指標」(財務の視点)の各指標値と、類似・近隣団体との比較結果及び「経営の健全性」「経営の効率性」「老朽化の状況」という3つの観点からの分析・評価結果について振り返りを行い、これに基づく経営・財務上の課題整理を行います。

(1) 経営の健全性

① 分析・評価

「経常収支比率」は100%を超えている一方で、「企業債残高対事業規模比率」が500%を超え、「流動比率」は100%を大きく下回っており、業務活動によって生み出された資金が蓄積されず、企業債の償還費などとして外部へ流出していると考えられます。

② 課題

特に「流動比率」は、類似・近隣団体の平均値からも乖離しているため、早急な改善が必要と言えます。

③ 課題の解決に向けて

「流動比率」の上昇に向け、企業債残高の抑制や現金収入がある収益の増進策を検討していく必要があります。

(2) 経営の効率性

① 分析・評価

「污水处理原価」は類似・近隣団体の平均値をやや下回る結果となっており、比較的効率的な污水处理が行っていると評価できる一方、「経費回収率」は100%を下回っており、本来使用者が負担すべき污水处理費を下水道使用料収入で賄えていない状況です。

② 課題

公営企業として「独立採算制の原則」に基づく適正な経営を行っていくため、「経費回収率」の改善が必要と言えます。

③ 課題の解決に向けて

「経費回収率」の上昇に向け、より一層の経費削減に努めるとともに、更なる収益増進を検討していく必要があります。

(3) 老朽化の状況

① 分析・評価

どの指標結果も類似・近隣団体の平均値よりも低い結果となっており、比較的老朽化は進んでいないと評価できます。

② 課題

当市では公共下水道事業の着手から約60年が経過しており、今後施設の老朽化が急速に進んでいくと予想されるため、更新投資の増大が懸念されます。

③ 課題の解決に向けて

「持続・安定的な下水道サービスの提供」を行っていくため、近い将来の更新投資増大に備えた内部留保資金や現金収入がある収益の増進策を検討し、計画的に施設の修繕や改築更新を実施していく必要があります。